



SL 冬の湿原号 + くしろ湿原ノロッコ号

能登沖での震災の傷跡はまだ癒えない中ですが、釧路湿原の厳しい冬は、そろそろ終わろうとしている。

冬の風物詩である SL 冬の湿原号は、今年も不調のようで、2月からは夏の風物詩として知られるノロッコ号の車両が SL を援けて走り、なんとか3月の千秋楽を迎えられそうです。煙に汚れたノロッコ号が、その身を顧みず復興に取り組む支援者の方達と、どこか重なって応援したい気持ちになってくる。

今はただ、すべての人たちにとって、暖かい春が来ることをお祈りいたします。



塘路フィールドノート【2/15～3/14】

【野鳥】

解氷の進む塘路湖やシラルトロ湖では、流入部や解氷部に多くの水鳥が集まって、海を越える前の体力を養っている。これから北の異国へと旅立つのだろう。冬鳥はそろそろ見納めかも知れません。



オオワシ (シラルトロ湖)
冬の空が良く似合う。白と黒のコントラストが見事。国の天然記念物。タカ科



ヒシクイ (コッタロ湿原)
シラルトロ湖の解氷部に大きな群れが降りている。これから北へ渡ります。カモ科



マヒワ (クチョロ線)
ベニヒワと一緒に群れでハンノキなどの種子を食べる。この個体は雄。アトリ科



ベニヒワ (クチョロ線)
タンチョウのように頭頂部が紅い。ハンノキ類の種子を啄んでいた。アトリ科



ウソ (標茶町)
群れで移動しながら冬芽や種子などを食べていた。この個体は雄。アトリ科



ミコアイサ (釧路川・冷泉橋)
雄の顔が巫女のような事が名前の由来。雌や幼鳥は頭が褐色 (写真右下)。カモ科。

◎刺繍の奥深い世界

3月2日(土)は、アイヌ刺繍を体験できる講座を開催しました。冒頭、講師からアイヌに伝わる刺繍の技法について講師から解説がなされました。参加者は予め用意された生地から、マタンプシ(アイヌの鉢巻き)かコースタをひとつ選び、資料を基に好きな色の糸を選んでチェーンステッチという手法で紡いでいきました。

アイヌ刺繍には紋様を紡ぐルールがあって、途中で縫合の向きを間違えると、やり直さなければならないため、参加者たちは2時間という短い時間の中で、完成を目指して真剣に作業に取り組みました。時間内に完成まで至った人は少なかったものの、皆さん、思い思いに満足いく作品を紡いでいきました。

参加者 18名



アイヌ刺繍の作品



作業風景

◎春が待ち遠しいですね

3月に入りめっきり暖かい日が続いています。このまま春到来となるのでしょうか？そんな陽気に誘われて、塘路の周辺では、ひっそりと春の兆しが確認されています。

陽当たりの良い山肌に、フクジュソウの鮮やかな花やフキノトウ(垂種アキタブキの花茎)が確認されました。

暖かい日にはセンターの壁に、テントウムシが歩いています。春は案外すぐそこまで来ているのかも知れません。



フクジュソウ



露の臺



ナミテントウ

【開館時間変更のお知らせ】

4月1日(月)よりセンターの開館時間が下記のとおり変更となります。

○10:00～16:00 → **10:00～17:00** (10月31日まで)

4月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

早春の湿原 野鳥観察会

[日 時] 4月20日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] シラルトロ湖畔・蝶の森(集合はシラルトロ自然情報館駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

春の足音を聴きに行こう

[日 時] 4月7日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

令和6年度 自然ふれあい行事予定表

<p>●早春の湿原 野鳥観察会 4月20日(土) 10時～12時 定員15名 渡り鳥の中継地シラルトロ湖周辺で、講師の解説を聞きながら野鳥観察を楽しみましょう。</p>	<p>●シマフクロウを知ってみよう 10月5日(土) 10時～12時 定員15名 保護増殖のおかげで道東中心に回復しつつあるシマフクロウの生態と今後の課題を学びます。</p>
<p>●ニタイ・トの新しい資料たち 4月27日(土)～5月5日(日)10時～17時 6周年を迎えた標茶町博物館「ニタイ・ト」。近年標茶町内の皆様よりご寄贈頂いた多くの新資料から、当時の生活や古き良き時代を懐かしむことが出来る資料を公開展示いたします。(標茶町博物館との共催行事)</p>	<p>●晩秋の湿原 野鳥観察会 10月26日(土) 10時～12時 定員15名 ヒシクイやオオハクチョウなどの渡り鳥が飛来する時期です。秋から冬にかけての野鳥の暮らしを観察します。</p>
<p>●新緑の森林ウォーク 5月25日(土) 10時～12時 定員15名 二本松橋から旧道を散策しながら、野鳥や春の植物を観察します。総移動距離 3.2km</p>	<p>●クリスマスリースを作ろう 11月30日(土) 13時～15時 定員15名 松ぼっくりや木の実などの自然の素材を使ってリースを作ります。</p>
<p>●初夏の湿原 野鳥観察会 6月8日(土) 8時～10時 定員15名 夏鳥が勢揃いしたフィールドで、繁殖期の野鳥の姿とさえずりの特徴を教わりながら散策します。</p>	<p>●絵の具づくり体験講座 12月7日(土) 13時～15時 定員15名 塘路湖周辺で採取した自然素材で顔料を作り、絵の具にして絵を描いて楽しむ講座です。</p>
<p>●初夏の湿原 展望台散策 6月22日(土) 10時～12時 定員15名 自然散策をしながらサルルン沼で子育てをするアカエリカイツブリの奮闘を観察します。</p>	<p>●アイヌ刺繍講座 1月11日(土) 10時～12時 定員15名 塘路湖周辺のアイヌ文化について学び、アイヌ民族の紋様を刺繍に取り入れたコースターを作ります。</p>
<p>●縄文土器作り講座 7月6日(土) 10時～14時 定員15名 塘路周辺には縄文時代の遺跡があり、実際に出土した土器を参考に作る講座です。(標茶町博物館との共催行事)</p>	<p>●塘路湖水上新台阶(御神渡り)へ 1月18日(土) 10時～12時 定員10名 スノーシューで塘路湖の氷上を歩き、周辺の自然とチャシ跡を観察しながら、例年氷丘脈ができる場所を目指します。総移動距離 5km</p>
<p>●夏休み! 塘路湖畔の夜の虫を探してみよう 7月27日(土) 18時半～20時半 定員15名 夜の塘路湖畔で色々なトラップを仕掛けて、クワガタムシなどの夜行性昆虫を観察しよう。</p>	<p>●シラルトロ湖・蝶の森スノーシューハイク 2月1日(土) 10時～12時 定員10名 雪のフィールドを散策しながら釧路湿原の自然や遺跡を観察します。スノーシュー使用。総移動距離 3.3km</p>
<p>●夏休み! 森林について学ぼう 8月31日(土) 10時～12時 定員15名 森の中を散策しながら、森林の仕組みや夏のキノコについて学ぶ観察会です。</p>	<p>●サルボ～シラルトロ湖スノーシューハイク 2月15日(土) 10時～13時 定員10名 標高70mの小山を2つ越えてシラルトロ湖に降り立ちます。スノーシュー使用。行動食持参。総移動距離 3.5km</p>
<p>●ムックリを作ってみよう 9月28日(土) 13時～15時 定員15名 アイヌ民族の伝統的な楽器、ムックリ(口琴)を作る体験講座です。作ったムックリを鳴らしてみよう。(標茶町博物館との共催行事)</p>	<p>●晩冬の塘路湖の氷上を歩こう 3月1日(土) 10時～12時 定員10名 冬が終わる前の塘路湖で猛禽類や自然現象を観察します。スノーシュー使用。総移動距離 4.3km</p>

※事前の申し込みが必要です。(ニタイ・トの新資料たちを除く)

◆日出・日入時間 2/15(6:20,16:51). 2/29(5:59,17:09).3/14(5:35,17:26)

～指導員のひとり言～

■能登沖の震災から早くも2ヶ月半が過ぎようとしている。支援の輪が広がってきているものの、今も不自由な生活を強いられている震災地の方たちには、一日も早い復興が望まれます。

釧路湿原は、まだまだ寒い日々が続きますが、陽当たりの良い山の斜面では、フクジュソウや露の臺が頭を出して、春の準備を始めているようです。

全ての人たちに、暖かい春が訪れることを、心より望むばかりである。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料